

# 令和5年度事業計画

令和5年4月1日～令和6年3月31日

当法人は、昭和39年1月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

令和4年度もその理念に基づき以下の事業を遂行する。

## I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

### 〈1〉調査・研究活動

#### 1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行われている。

\*各研究会の概要は7頁に記載。

#### ①唐代語録（『祖堂集』）研究会〔班長 西口芳男〕

今年度は巻13・招慶和尚章第47則（全48則）より始め、報慈和尚章（全34則）へと読み進める。第二第四の金曜日開催。参加メンバーは、花園大学の教員や院生、他大学の教員や研究員など。研究成果は『禅文化研究所紀要』に発表。

#### ②「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

班員による読解はほぼ終了しており、西口が整理中。

#### ③「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

コロナ禍により令和4年度も休会となったが、今年度は5月より再開する予定。前々年度を引き継ぎ、巻17・羅山道閑禅師（全19則）、福州香溪從範禅師（全3則）、福州羅源聖寿巖和尚（全1則）、安州白兆山竺乾院志円禅師（全6則）、襄州鷲嶺善本禅師（全2則）、潭州谷山有縁禅師（全2則）、潭州龍山和尚（全3則）、潭州伏龍山和尚（全3則）、京兆白雲善蔵禅師（全3則）、潭州伏龍山和尚二世（全2則）、陝府龍峻山和尚（全4則）、潭州伏龍山和尚三世（全1則）、新羅清院和尚（全1則）、洪州泐潭宝峰神党禅師（全2則）、吉州南源山行修禅師（全2則）、洪州泐潭明禅師（全5則）を読み進め、且つ原稿化を進める。隔月1回開催。

参加メンバーは、花園大学の教員や院生、他大学の教員や研究員など。

#### ④俗語言研究会〔担当：衣川賢次・西口芳男〕

平成5年～10年にかけて、日中の中国語学研究者に呼びかけて刊行した雑誌『俗語言研究』を中国四川大学が主（経費負担を含む）となって復刊した。禅宗研究の推進を目標とし、禅宗の言語、禅宗の歴史と思想、禅宗文献の研究を主題とする論文、書評等を掲載する。日本側は監修として参画。今年度中に『俗語言研究』第8号（復刊第3号）を刊行する予定。

## 2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類について独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

今年度は、法式の基本作法を映像に収め配信することを検討する。

## 3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

「西田哲学研究会」は、令和4年度と同様に、オンラインにて、年4回の開催予定であり、「一般者の自覚的体系」の読解と討議を継続して行きたい。

「西谷研究会」は、若手研究者の希望もあり、昨年11月6日に京都工芸繊維大学にて、新しい研究会を開催し、読解テキストも「大谷講義」から「宗教哲学序論」に変更して、新たな出発を開始した(参加者18名)。年4回の開催予定である。「大蔵会」の開催も計画中である。

上田閑照先生の研究会も希望が多く準備中である。

## 4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。

### ① 江湖開山等語録研究〔担当 能仁晃道・藤田琢司〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行う。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。仙台伊達家の歴史書である『伊達出自世次考』『伊達正統世次考』の訓注と翻刻を終え、令和5年末に刊行する。また、大阪正法寺の勸請開山梅天無明禅師の語録の整理を行う。

### ② 『延宝伝灯録』研究〔担当 藤田琢司〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記『延宝伝灯録』（元師蛮撰述）の訓注作業を行なう。本書は江戸初期までの日本禅僧の伝記の集大成として重要な文献である。しかし難解かつ四十一巻という大部であるため、いままで訓読などが刊行されたことはなかった。

既に訓読は終了し、今年度は注をつける作業に入り令和6年度の刊行を目指す。

## 5. マルチメディア研究班

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。

今後は、法式、漢詩等の若手僧侶の一助となる映像配信を計画しているほか、花園大学仏教学科と共同で、『宗学概論』改訂版の編集を行う。

## 6. 人材の発掘及び研究発表の場の提供

京都の僧堂師家を中心に、研究者や若手僧侶の交流の場を設け、人材発掘、育成に繋がるような布石を検討している。花園大学とも情報を共有する。

## 〈2〉資料収集・資料公開活動

### 1. デジタルアーカイブス

臨済宗・黄檗宗寺院において大切に遺されてきた禅仏教や寺院に関する文化財を、デジタル化して広く国内外に公開（紹介）する事業。

これらのアーカイブを構築することで、多様な学術研究を支えるための基盤作りを行ない、その活用を推進していく。

#### ①デジタルアーカイブス（禅文化財目録整備事業）

臨済宗・黄檗宗寺院のうち、デジタル化について理解の得られた寺院に出向くなどをして調査・撮影を行ない、デジタルコンテンツを作成する。

令和4年度に「禅文化財 COLLECTION」サイトを開設して、当法人の所蔵する学術資源から公開している。調査済み寺院の所蔵する学術資源は、今年度に順次公開していくために、約款やサイトの設備などの準備をしている。

#### ②寺宝調査活動

①のための調査を継続する。令和4年度は、大本山南禅寺（京都）の調査の整理が終了して所蔵データの納品を行ったアーカイブデータの納品を行った。

令和4年までに請け負った調査のデータ化と整備を行っている。過去の調査寺院のデータ化が整うまで調査活動は休止とする。

### 2. 資料の収集・整理・公開

#### ①資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた37,000点にのぼる文献資料のうち、未整理分について、資料管理ソフトを用いての入力と分類整理を行う。オンライン蔵書検索システム構築は令和4年度の完成を予定しており、蔵書のうち約1万冊の検索と、一部であるが資料画像の閲覧も可能となる。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれているが、これらの閲覧は、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放する。

#### ②禅文化研究所企画墨蹟展（花園大学歴史博物館と共催）

禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行う墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。5/15～7/8まで「自性寺」展を開催。会期中には記念講演会も行う。

#### ③黒豆データベース公開

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。

#### ④問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられ、それらの回答に応じる。墨蹟の解説や偈頌の添削など是有償の場合あり。

### 〈3〉 広報・普及活動

#### 1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は、268号～271号を発行する。268号は「盤珪」、269号は「禅と女性」の特集を予定している。花園大学には学生の父兄向けに毎号購入いただいている。

#### 2. 研究成果の刊行

##### ○日本禅宗史・禅語録研究班の成果

①『「金剛経」の真髓』 小金丸泰仙 (令和5年夏刊行)

##### ○マルチメディア研究班の成果

①『2024年禅語こよみ』 (令和5年9月刊行)

②『世語を楽しむ』 重松宗育 (令和6年刊行予定)

##### ○その他

①禅文化研究所紀要37号 \*電子版 (令和6年3月刊行)

##### ○電子書籍・オンデマンド出版

現在、電子書籍化しているのは、『馬祖の語録』『新 坐禅のすすめ』『禅心の光芒』や『童謡 禅のこころを歌う』の4冊。既刊本のうち即応対応可能なものを選択し電子書籍として出版するほか、新刊は紙媒体と同時に刊行することも検討する。また、1冊ずつ印刷・製本・配送が可能なamazonプリントオンデマンドの利用も開始する。

#### 3. 公開講義等

##### ①『趙州録』講義〔講師：衣川賢次〕

趙州從諗和尚(778～897)の問答の記録である『趙州録』を読むことを通して、唐代禅の対話精神にふれ、唐代禅思想表現の精華を知るための講義。一般社会人や花園大学院生らが参加。毎週火曜日、1時～2時30分開催。

#### 4. ホームページの運営とコンテンツの充実

##### ①禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

本年度もホームページのコンテンツ更新を行なっていく。ショップシステムの構築に合わせリニューアルの準備を進める。また、FacebookやTwitterへも更新情報等シェアしていく。

##### ②臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨濟禅を内外に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行う。

## 5. 公開講演会等

### ①東京・禅文化講演会（新規）

大岡記念財団との共催で11月16日（木）18時より日本工業倶楽部会館（丸の内）で実施。20代から40代のビジネスマンを対象に、講演と実習（坐禅）を通してストレス社会を生き抜く対処法を学び、禅の精神に触れてもらう。毎年1回の開催で5年間継続を目指す。第1回の講師は松竹寛山老師。受講無料。

### ②公開講演会

「自性寺」展公開中に記念講演会を開催する。

6月6日（火）13時 講師：芳澤勝弘 会場：花園大学教堂ホール

### ③サンガセミナー

これまで、寺院の教化活動や運営などに役立つ実践的なセミナーとして開講してきたが、一般を対象とした禅のセミナーとして実施する。昨年は黄檗山万福寺を特別拝観する企画であったが、今年度も秋～冬に実施すべく新たな企画を検討中。

### ④花園大学サテライト講座『禅とこころ』（新規：国際禅学研究所・妙心寺派教化センターと共催）

花園大学との共催で東京でのサテライト講座（有料）を実施する。年3回（令和6年1～3月）の予定。

## 6. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店、美術館などの各ルートを通じて普及促進する。紙媒体ではコストがかかり情報の鮮度も落ちるため、今年度もメールマガジンの発行、Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及する。季刊誌については、花園会館や南禅寺会館の客室に常備いただいている。

## 7. 第16回東西霊性交流（花園大学と共催）

禅僧とカトリック修道士との修行体験による交流を通して、禅とキリスト教の相互理解を深める東西霊性交流を国内で実施する。受入れ人数は6～7名。期間は9月下旬～10月初旬の予定。花園大学との共催事業。

## 8. 創立60周年事業（新規）

令和6年（2024年）に研究所は創立60周年を迎える。サイトリニューアル、記念講演会、出版等の企画を検討する。

# II. 収益・共益等事業

## 〈1〉ソフト開発・販売等事業

### 1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心

に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を中心に販売を行う。

「擔雪Ⅲ」について、使用者アンケート、開発外注費用、期間などの判断情報を集め、可能な場合は、60周年に完成を目指す。

問題であった、開発者1人、サポート1人の体制に関しては、開発に関しては、外注を利用して、サポートに関しては、所内でサポートマニュアル、または、Q&A動画配信で対応を検討中。

## 2. オーダー型宗務所管理システムの構築

以下の構築済みシステムの機能追加や運用をサポートする。

東福寺派管理システム	佛通寺派管理システム
南禅寺派管理システム	真言宗管理システム
建長寺派管理システム	青蓮院管理システム
曹洞宗宗務所管理システム	永保寺墓地管理システム
天龍寺派管理システム	藏春寺霊園管理システム
妙心寺派布教師会管理システム	妙心寺派 白隠さんの会

現在、臨黄15派のうち6本山は研究所のシステム（「擔雪Ⅱ」含む）を利用中。

## 3. 宝物管理システムの販売

公益事業の一般寺院什物データベースと関連して、一般寺院が個々に所蔵される宝物什物（軸物・仏像など）をデジタルアーカイブとしてデータベース管理できるソフトウェア「禅の至宝」を引き続き寺院に向けて販売する。デジタルアーカイブ調査を終えた寺院に、構築したデータベース（無償）と共にご購入いただいている。

## 4. 出版物頒布

他社から委託を受けた出版物をホームページやDMなどで案内し頒布する。

# 〈2〉 共益事業

## 1. 寺院その他委託刊行

- |            |         |             |
|------------|---------|-------------|
| ① 『梅天禅師法語』 | 妙心寺派正法寺 | （令和7年刊行準備中） |
| ② 『伊達家の歴史』 | 満勝寺（仙台） | （令和5年刊行準備中） |

## 2. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した引導法語データベースについて公開中。

## 3. 臨黄合議所事務局

臨濟宗・黄檗宗各本山の合議機関である臨黄合議所からの事務委託を行う。

- ① 臨濟宗黄檗宗宗勢調査
- ② 「臨黄会報」の発行（年2回）。
- ③ 臨黄互助会の促進。

- ④ 臨黄教化研究会の実施。
- ⑤ 会議等の事務処理。

#### 4. 日中臨黄友好交流協会

今年度も中国側から依頼があれば情報提供を実施する。

### 中国禅語録研究班の概要

#### ①唐代語録（『祖堂集』）研究会

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと52年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に50年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第8冊、2003年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

#### ②「神会語録」研究会

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

#### ③「景德伝灯録」研究会

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全30巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。